

インド税務およびビジネス法アップデート
(2022年度第1四半期)

(2022年7月)
日本貿易振興機構(ジェトロ)
ニューデリー事務所
ビジネス展開支援課

報告書の利用についての注意・免責事項

本報告書は、日本貿易振興機構（ジェトロ）ニューデリー事務所が現地会計事務所 Grant Thornton Bharat LLP に作成委託し、2022年7月18日に入手した情報に基づくものであり、その後の法律改正などによって変わる場合があります。掲載した情報・コメントは作成委託先の判断によるものですが、一般的な情報・解釈がこのとおりであることを保証するものではありません。また、本報告書はあくまでも参考情報の提供を目的としており、法的助言を構成するものではなく、法的助言として依拠すべきものではありません。本報告書にてご提供する情報に基づいて行為をされる場合には、必ず個別の事案に沿った具体的な法的助言を別途お求めください。

ジェトロおよび Grant Thornton Bharat LLP は、本報告書の記載内容に関して生じた直接的、間接的、派生的、特別の、付随的、あるいは懲罰的損害および利益の喪失については、それが契約、不法行為、無過失責任、あるいはその他の原因に基づき生じたか否かにかかわらず、一切の責任を負いません。これは、たとえジェトロおよび Grant Thornton Bharat LLP が係る損害の可能性を知らされていても同様とします。

本報告書に係る問い合わせ先：

日本貿易振興機構（ジェトロ）

ビジネス展開・人材支援部 ビジネス展開支援課

E-mail：BDA@jetro.go.jp

ニューデリー事務所

E-mail：IND@jetro.go.jp

The logo for JETRO (Japan External Trade Organization) is displayed in a large, bold, serif font.

目次

Sr. No.	概要	ページ数
1	1961年所得税法	P.1～3
2	GST法	P.3～4
3	1962年関税法	P.4～5
4	2015-20年度外国貿易政策	P.5～7
5	1999年外国為替管理法	P.8
6	その他	P.8

Sr. No	項目	概要	引用文献
1961年所得税法			
1	所得税申告書の提出義務者（会社等を除く）に関する改正	<p>直接税中央委員会は、1961年所得税法第139条(1)(b)、第139条(1)ただし書き7(iv)に規定する所得税申告書を提出すべき者(会社等を除く)の条件として、1962年所得税細則12ABを規定した。当該細則に基づき所得税申告書を提出すべき者は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年度(previous year)において、事業上の総売上高、総収入のいずれかが600万ルピーを超える場合 前年度において、専門家報酬の総収入が100万ルピーを超える場合 前年度において、TDSとTCSの合計が2万5,000ルピー以上の場合 前年度において、一口以上の貯蓄口座(savings account)への預金合計が500万ルピー以上の場合 	<p>https://incometaxindia.gov.in/communications/notification/notification-37-2022.pdf</p> <p>Notification No. 37/2022</p>
2	1961年所得税法第47条(viiac)(viiad) Explanation(a)(ii)に規定する国等に関するリストの公表	<p>1961年所得税法第47条では、キャピタルゲインの対象とならない取引が規定されている。本通達では、同法第47条(viiac)(viiad)に基づく「original fund（インド国外で組成されたファンド）」から「Resultant Fund（インド国内で組成されたファンド）」への資本資産（Capital Asset）の譲渡の対象となる150の国および特定地域のリストを公表した。</p>	<p>https://incometaxindia.gov.in/communications/notification/notification-46-2022.pdf</p> <p>Notification No. 46/2022</p>
3	所得税修正申告書(updated return)のFormおよび提出方法の通知	<p>直接税中央委員会は、2020年4月1日に開始するAssessment Year（AY：申告書の提出年度）および以降のAYに関して1961年所得税法第139条(8A)に基づき修正申告書(updated return)を提出する場合のForm ITR-Uおよび提出方法を通知した。</p>	<p>https://incometaxindia.gov.in/communications/notification/notification-48-2022.pdf</p> <p>Notification No. 48/2022</p>

4	事前裁定の申請書および申請方法の変更	所得税中央委員会は、1962年所得税細則 44E に規定された事前裁定の申請方法および申請書を変更した。	https://incometaxindia.gov.in/communications/notification/notification_no_49_2022.pdf Notification No. 49/2022
5	PAN の必要な取引	<p>直接税中央委員会は、1961年所得税法第 139A 条(1)(vii)に規定する PAN の必要な取引として、1962年所得税細則 114BA を規定した。当該細則に基づき PAN の必要な取引とは以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 銀行、協同組合銀行(co-operative bank)、郵便局(Post Office)の 1 口以上の口座で、現金の預け入れ、または 1 財務年度(Financial Year)に合計 200 万ルピー以上の預金をする場合 ● 銀行、協同組合銀行、郵便局の 1 口以上の口座で、現金の引き出し、または 1 財務年度に合計 200 万ルピー以上の引き出しを行う場合 ● 銀行、協同組合銀行、郵便局で当座預金口座または当座貸越口座(cash credit account) を開設する場合 	https://incometaxindia.gov.in/communications/notification/notification-no-53-2022.pdf Notification No. 53/2022
6	1961年所得税法 206AB 条および 206CCA 条の改正とコンプライアンス・チェック機能の追加	<p>2022年財政法により 1961年所得税法 206AB 条(TDS に関する規定)および 206CCA 条(TCS に関する規定)に基づき「特定の者」に対して通常より高い源泉税率を適用する規定が改正された。改正内容は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1961年所得税法 206AB 条の規定は同法 194-IA 条（不動産の譲渡）、194-IB 条（家賃の支払い）、194M 条（個人による特定の支払い）に則り源泉徴収するものには適用しない。 ● 1961年所得税法 206AB 条の規定は、一定の者の同法 194S 条に基づく仮想デジタル資産(Virtual Digital Asset : VDA)の譲渡の場合には適用しない。 	https://incometaxindia.gov.in/communications/circular/circular-no-10-2022.pdf Circular No. 10 of 2022 https://incometaxindia.gov.in/communications/notification/notification-no-01-of-2022.pdf Notification No. 01 of 2022

		<ul style="list-style-type: none"> 「特定の者」の定義が、納税者が過去1年間法人税の申告を行っていない、かつ、前年度における TDS と TCS の合計が 5 万ルピー以上である場合に変更された。 <p>また、TDS および TCS の源泉徴収義務者がコンプライアンスを遵守するための「コンプライアンス・チェック機能(the Compliance check functionality)」の手順を説明している。</p>	
7	セーフハーバー規定の延長	1962 年所得税細則 10TD に規定する移転価格に関するセーフハーバー規定を Assessment Year 2022-2023 年度まで延長。	https://incometaxindia.gov.in/communications/notification/notification-66-2022.pdf Notification No. 66 /2022
8	仮想デジタル資産(Virtual Digital Asset : VDA)の譲渡に関する TDS の四半期報告書 (Form26QF) の公表	直接税中央委員会は、1961 年所得税法第 194S 条に基づく仮想デジタル資産(VDA)の譲渡に関する TDS の四半期報告書、Form26QF を公表した。	https://incometaxindia.gov.in/communications/notification/notification-no-73-2022.pdf Notification No. 73/2022

Sr. No	項目	概要	引用文献
GST 法			
1	調査過程における Form DRC-03 による自主的な納税における課題	<p>GST の調査過程において、調査官が権力を用いまたは強制的に Form DRC-03 を通じて納税者に納税を求める事案が発生している。Form DRC-03 は納税者が自主的に GST を納付するための様式である。法律上、調査官が納税者に追徴課税を求める場合は、適切な法手続きを経て、最終通知書 (Order) を発行しなければならない。</p> <p>上記を鑑み、本 Instruction にて間接税関税中央委員会は、調査過程において調査官が権力を用いまたは強制的に納税を求めた場合、内容を調査し、不正行為があった場合、調査官に対して罰則を科すと言及している。</p>	https://taxinformation.cbic.gov.in/view-pdf/1000419/ENG/Instructions Instruction No. 01/2022-23[GST-INV]

2	還付請求の認可(sanction)、事後監査(post audit)、審査(review)に関する手順の発表	2017年 CGST 法第 107 条(2)より、コミッショナーは、(還付請求を含む)あらゆる決定や命令 (Order) を 6 カ月以内に合法性・適法性の観点から審査 (Review) し、その決定・命令に対して不服申し立てを提起することができる。しかし、還付請求の認可(sanction)、事後監査(post audit)、審査(review)の手続きが、調査官・管轄区により異なるという課題が生じた。それ故、間接税中央委員会は、還付請求に関する認可(sanction)、事後監査(post audit)、審査(review)手続きの統一性を確保するためのガイドラインを発表した。	https://taxinformation.cbic.gov.in/view-pdf/1000423/ENG/Instructions Instruction 03/2022
---	--------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

Sr. No	項目	概要	引用文献
1962 年関税法			
1	2022 年財政法と関税通達の HS コードの整合性のための修正	本通達では、2022 年財政法と過去の通達に記載された HS コードの整合性を図るため、過去の通達における HS コードを修正した。2022 年 5 月 1 日より本通達は適用される。	https://taxinformation.cbic.gov.in/view-pdf/1009296/ENG/Notifications Notification No. 23/2022-Customs
2	Toluene Di-isocyanate (TDI) に対するアンチダンピング関税 (ADD) の延長	中国、日本、韓国を原産地または輸出国とする「Toluene Di-isocyanate (TDI)」の輸入に対するアンチダンピング関税 (ADD) を 2022 年 9 月 27 日まで延長。	https://taxinformation.cbic.gov.in/view-pdf/1009339/ENG/Notifications Notification No. 19/2022-Customs (ADD)
3	2018 年海上輸送貨物マニフェストおよび積替規制 (Sea Cargo Manifest and Transshipment Regulations, 2018)	1971 年輸入マニフェスト(船舶)規制(Import Manifest (Vessels) Regulations,1971)に基づく Form III と 1976 年輸出マニフェスト(船舶)規制(Export Manifest(Vessels)Regulations,1976)に基づく Form I による貨物申告を 2022 年 12 月 31 日まで延長。	https://taxinformation.cbic.gov.in/view-pdf/1009409/ENG/Notifications Notification No. 56/2022-Customs (N.T.)
4	IGST と補償税 (Compensation Cess) の免除延長	事前認可制度(Advance Authorization : AA)、輸出促進資本財制度 (Export Promotion Capital Goods : EPCG)、100%輸出指向型企業制度 (Export Oriented Unit : EOU)のもとで輸入された商品に対する IGST と補償税(Compensation Cess)の免除が 2022 年 7 月 1 日以降も延長。	https://taxinformation.cbic.gov.in/view-pdf/1009391/ENG/Notifications Notification No. 37/2022-Customs

5	プラスチック製品の輸入規制の変更	<p>プラスチック廃棄物管理細則(Plastic Waste Management Rules)の修正に伴う輸入規制の主な変更点は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 再生プラスチック製のキャリーバッグは、2021年9月30日以降、厚さ75ミクロン以上、2022年12月31日以降、厚さ120ミクロン以上でなければならない。 ポリスチレン・発泡スチロールを含む使い捨てプラスチック製品の製造、輸入、保管、流通、販売および使用が、2022年7月1日以降禁止される。 コンポスト可能なプラスチック (compostable plastic) で作られた一部製品については、上記2点目の規定は適用されない。 	<p>https://taxinformation.cbic.gov.in/view-pdf/1000424/ENG/Instructions</p> <p>Instruction No. 09/2022-Customs</p>
6	輸入食品のラベル表示の修正方法に関する説明	<p>インド食品安全基準局(Food Safety and Standards Authority of India : FSSAI)に規定された輸入食品のラベル表示の修正方法に基づき、以下の修正が可能となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 栄養所要量に対する貢献割合、賞味・消費期限の港での修正。 ラベリングの修正は、保税倉庫で、剥離不可能なステッカーまたはその他の剥離不可能な方法を用いて実施。 	<p>https://taxinformation.cbic.gov.in/view-pdf/1000425/ENG/Instructions</p> <p>Instruction No. 10/2022-Customs</p>

Sr. No	項目	概要	引用文献
2015-20年度外国貿易政策			
1	2015～2020年外国貿易政策の改正	<p>事前認可制度(Advance Authorization : AA)、輸出促進資本財制度(Export Promotion Capital Goods : EPCG)、100%輸出指向型企業制度(Export Oriented Unit : EOU)のもとで輸入された商品に対するIGSTと補償税(Compensation Cess)の免除を2022年6月30日まで延長。</p>	<p>https://content.dgft.gov.in/Website/dgftprod/68228877-35b7-41f2-a66d-24a86d5fb92f/Notification%2066%20English.pdf</p> <p>Notification 66/2015-2020</p>

2	<p>2015～2020年外国貿易政策手続きハンドブック (Handbook of Procedures 2015-20) 第5章 輸出促進資本財制度(Export Promotion Capital Goods : EPCG)の改正</p>	<p>輸出促進資本財制度(Export Promotion Capital Goods : EPCG)について、コンプライアンス負担を軽減する観点から以下の改正を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 輸出義務の履行期日から6カ月以内に、2%の手数料を支払うことにより輸出義務(Export Obligation : EO)の履行の延長申請が可能。 ● 輸出義務の履行期日から6カ月経過後であっても、認可書(authorization)の発行日から8年以内であれば、遅延手数料を支払うことで、輸出義務(EO)の履行の延長申請が可能。 ● 認可保持者は、毎年6月30日までに輸出義務(EO)を履行した旨の報告書を提出しなければならない(以前は毎年4月30日まで)。 ● 輸出義務免除証明書(Export Obligation Discharge Certificate : EODC)は、オンライン申請に基づいて、地域当局からEPCG認可保持者に発行される。 ● EPCG認可保持者が輸出義務を履行できなかった場合、または、輸出促進資本財制度(EPCG)からの脱退を選択した場合、関税・Cessに延滞税を加えた金額を支払う必要がある。 	<p>https://content.dgft.gov.in/Website/dgftprod/5321a1fd-a653-4914-8567-581e86983cbe/PN%20dated%2013-04-2022%20(English).pdf</p> <p>Public notice 03/2015-2020</p>
3	<p>紙類の輸入政策の変更</p>	<p>紙類の輸入政策が変更された。主な変更点は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 紙類の新たな輸入政策として、紙類輸入監視システム(Paper Import Monitoring System : PIMS)のもと、事前登録を義務化。 ● PIMSは2022年10月1日より適用される。2022年10月1日以降の紙類の税関申告書(Bill of Entry : BOE)はPIMSに準拠する。 	<p>https://content.dgft.gov.in/Website/dgftprod/c42a7e71-522a-477c-b232-40a6b1606cf7/Notification%2011%20-%20English.PDF</p> <p>Notification No. 11/2015-2020</p>
4	<p>2011年日本・インド包括的経済連携協定に基づく物品の原産地の決定に関する細則(the Customs Tariff (the Comprehensive Economic Partnership Agreement between the Republic of India and Japan) Rules, 2011)の改正</p>	<p>2011年日本・インド包括的経済連携協定に基づく物品の原産地の決定に関する細則(the Customs Tariff (the Comprehensive Economic Partnership Agreement between the Republic of India and Japan) Rules, 2011)の Annexure-1, Part 2, section I, chapter 3 (魚並びに甲殻類、軟体動物およびその他の水棲無脊椎動物)の対象品目を変更。</p>	<p>https://taxinformation.cbic.gov.in/view-pdf/1009307/ENG/Notifications</p> <p>Notification No. 44/2022 - Customs (N.T.)</p>

5	2022年財政法と輸出品に対する関税および課税減免表(RoDTEP schedule/Appendix 4R)の整合性のための通達	2022年財政法と輸出品に対する関税および課税減免表(RoDTEP schedule)の整合性を図るため、品目名、減税率、上限を記載したAppendix 4Rを通達。本通達は2022年5月1日より適用される。	https://content.dgft.gov.in/Website/dgftprod/39ce6c85-d8a7-43c8-9b78-ff08919121e6/Notification%20No%2012%20dt%2001%2006%202022%20-%20English.pdf Notification No.12/2015-2020
6	2015～2020年外国貿易政策手続きハンドブック(Handbook of Procedures 2015-20)第5章輸出促進資本財制度(Export Promotion Capital Goods : EPCG)の改正	輸出促進資本財制度(Export Promotion Capital Goods : EPCG)について、以下の改正を行った。 <ul style="list-style-type: none"> 2022-23年の年次報告書の提出期限を2022年9月30日まで延長。 2022-23年以降に提出する報告書について、遅延した場合に手数料5,000ルピーが課される。 	https://content.dgft.gov.in/Website/dgftprod/c4a9f674-0a45-4d62-a1ee-51b5d022c03d/PN%2013%202015-20%20DT.%2009%20June%202022.pdf Public notice No.13/2015-20
7	半導体集積回路輸入監視システム(Chip Import Monitoring System : CHIMS)に関する明確化	商工省商務局・外国貿易部(Directorate General of Foreign Trade : DGFT)は、以下を明確化した。 <ul style="list-style-type: none"> 輸入者は、一つの登録番号に複数の製品を含めることが可能。 半導体集積回路輸入監視システムは航空/海上輸送にも適用。 半導体集積回路輸入監視システムは、ITC (HS) コード 84733010 に該当するマイクロプロセッサおよび ITC (HS) コード 84733099 に該当するメモリモジュールを除外。 	https://content.dgft.gov.in/Website/dgftprod/1db26ecc953604/Policy%20Circular%20No%2040%20dt%2027-06-22.pdf Policy Circular No.40/2015-20

Sr. No	項目	概要	引用文献
1999年外国為替管理法			
1	取引主体識別コード(Legal Entity Identifier : LEI)の対象の拡大	インド準備銀行(Reserve Bank of India : RBI)は、取引主体識別コード(Legal Entity Identifier)に関するガイドラインの対象をプライマリー(都市)協同組合銀行(Primary(Urban) Cooperative Banks : UCBs)とノンバンク金融会社(Non-Banking Financial Companies : NBFCs)に拡大した。 また、銀行等から総額5,000万ルピー以上のエクスポージャー(exposure)を享受している非個人(non-individual)の借り手は、一定の	https://rbidocs.rbi.org.in/rdocs/notification/PDFs/NOT34676C62BB410446DD99D7D1F409FF50DE.PDF DOR.CRE.REC.28/21.04.048/2022-23

	期間内に LEI を取得しなければならない。	
--	------------------------	--

Sr. No	項目	概要	引用文献
その他			
1	閾値を超える従業員積立基金への拠出金に係る課税対象利息と源泉徴収に関する説明	現在従業員積立基金(PF)の従業員拠出金の内、年間 25 万ルピーを超える部分を対象とした利息は課税対象となっている。本通達では、課税対象利息に関する計算および源泉徴収について説明している。	https://www.epfindia.gov.in/site_docs/PDFs/Circulars/Y2022-2023/WSU_IT_PF_TDS_4581.pdf No. WSU/6(1)2019/Income Tax/Part-I (E-33306)